

平成30年度決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
5	1	4	土地改良費	270

部局名	都市整備部
課名	土木管理課

I：事業概要

施策事業名	土地改良
事業目的	用水路、ため池など土地改良施設を適切に維持管理する。
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ●全体の事業計画 <ul style="list-style-type: none"> ・用水路、ため池など土地改良施設を適切に維持管理する。 ●主な事業内容 <ul style="list-style-type: none"> ○土地改良(排水)事務 <ul style="list-style-type: none"> ・ほ場整備確定測量成果データ化業務委託 972,000円 ・濃尾用水地区用排水対策協議会負担金 2,000円 ・尾張西部排水対策推進協議会負担金 10,000円 ○土地改良(排水)施設管理 <ul style="list-style-type: none"> ・揚水機場保守点検委託(一本杉ポンプ場外4) 540,000円 ・土地改良施設清掃委託(馬堤池外4箇所) 515,160円 ・堰、ゲート保守点検委託料 486,000円 ・公共用地除草委託(一ツ橋大池地区外) 21件 3,712,000円 ・土地改良施設維持工事(用水路等の地元要望) 52件 10,963,296円 ・木津用水排水負担金 8,030,000円 ・木津用水路汚水処理施設維持管理費負担金 7,589,000円 ・入鹿用水土地改良区施設維持管理負担金 5,240,781円 ○農村自然環境施設管理 <ul style="list-style-type: none"> ・農村自然環境整備事業造成施設維持管理業務委託(中島池ピオトーブ) 896,400円 ・公衆トイレ清掃管理業務委託(中島池東公衆トイレ) 855,684円 ・ピオトーブ施設維持工事 1,900,800円
事業の成果・効果	用水路、ため池等において、除草、浚渫、堰・ゲートの点検など適正な維持管理を行った。

II：個別事業内訳

(単位：千円)

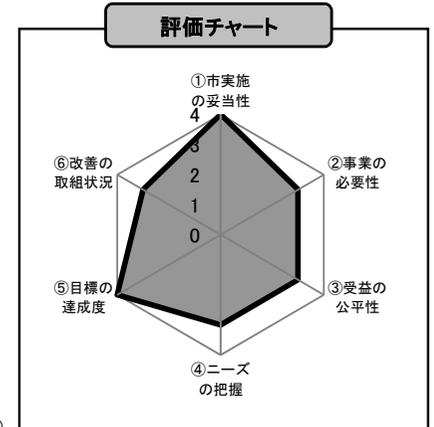
(総点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	総点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		情報発信	利便性向上	他市比較
土地改良(排水)事務	1,513	185	1,328	88%	3	3	3
土地改良(排水)施設管理	37,346	0	37,346	100%	3	3	3
農村自然環境施設管理	3,773	902	2,871	76%	3	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	42,632	1,087	41,545	97%	3	3	3

III：年度別事業費の状況

(単位：千円)

事業費	H29決算	H30決算	R1予算	
		38,246	42,632	40,527
財源内訳	国庫支出金	116	1,027	120
	地方債	0	0	0
	その他	56	60	40
	一般財源	38,074	41,545	40,367
一般財源の割合	100%	97%	100%	



IV：事業の評価 (4段階評価、PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	4	犬山市法定外公共用物の管理に関する条例第2条の規定により用水路、ため池等の管理は市が行う。
②事業の必要性	3	土地改良施設を適正管理することにより、洪水抑制機能等の多面的効果が発揮され、市民生活の向上に寄与しており、事業実施の必要がある。
③受益の公平性	3	用排水路やため池は農業用のみならず、地域排水路や洪水調整池としての機能を有しており、その効果は広範囲に及ぶ。
④ニーズの把握	3	年度毎に提出される土木要望により、利用者の要望(ニーズ)を把握している。
⑤目標の達成度	4	危険箇所や事業効果が高い要望を優先的に実施し、水路関係の要望達成率は47%であり年度当初目標40%を上回ることができた。
⑥改善の取組状況	3	事業の妥当性、経済性等を考慮し実施している。

V：業務の総点検 (PDCAサイクルのC→A)

平成30年度に見直しを実施した事項	防災重点ため池等93箇所の施設点検を職員により実施した。
令和元年度に見直しを実施している事項	引き続き、職員による点検を実施していく。
今後見直しを検討する事項	ため池については「緊急時の迅速な避難行動に繋げる対策」や「施設機能の適切な維持、補強に向けた対策」を国や県と連携し検討をしていく。

VI：課題とその対応策及び今後の方向性 (平成30年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
用水路、ため池等の要望における事業採択の決定について、優先度等今後の考え方を整理する必要がある。	用水路、ため池等の要望において、優先度、緊急性等を整理し、事業採択を決定していく必要がある。

平成30年度決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
5	2	1	林業振興費	274

部局名	都市整備部
課名	土木管理課

I：事業概要

施策事業名	林道管理
事業目的	林道の維持補修を行い、適正管理に努める。
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ●事業の全体計画 <ul style="list-style-type: none"> ・林道の維持補修を行い、適正管理に努める。 ●主な事業内容 <ul style="list-style-type: none"> ○林道管理 <ul style="list-style-type: none"> ・林道維持工事 49,680円
事業の成果・効果	林道の維持補修を行い、適正管理に努めた。

II：個別事業内訳

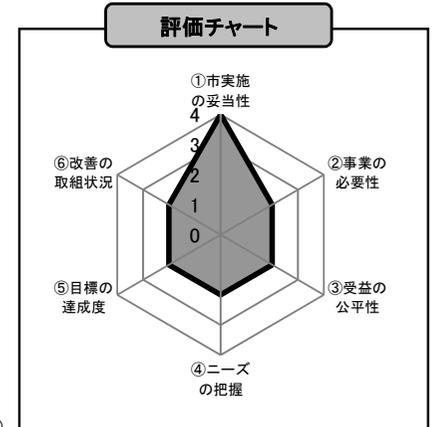
(単位：千円)

(総点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	総点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		情報発信	利便性向上	他市比較
林道管理	50	0	50	100%	2	2	2
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	50	0	50	100%	2	2	2

III：年度別事業費の状況 (単位：千円)

事業費	H29決算	H30決算	R1予算
	国県支出金	0	0
地方債	0	0	0
その他	0	0	0
一般財源	42	50	83
一般財源の割合	100%	100%	100%



IV：事業の評価 (4段階評価、PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	4	林道管理規程第5条に定める管理者である市が実施する。
②事業の必要性	2	林道の維持管理を行っていく上で事業の継続は必須であるが、非常時には、要望等の事業は縮小も止むを得ない事業である。
③受益の公平性	2	林道利用者は限られているが、森林の持つ多面的な機能は、市民の生活環境向上に寄与している。
④ニーズの把握	2	年度毎に提出していただく土木要望により、利用者の要望(ニーズ)の把握に努めている。
⑤目標の達成度	2	台風による倒木については、災害復旧事業で対応している。
⑥改善の取組状況	2	事業の妥当性、経済性等を考慮し実施している。

V：業務の総点検 (PDCAサイクルのC-A)

平成30年度に見直しを実施した事項	事業の実施時には、妥当性、経済性等について見直しを図っている。
令和元年度に見直しを実施している事項	事業の実施時には、妥当性、経済性等について常に見直しを図っていく。
今後見直しを検討する事項	今後も事業の実施時には、妥当性、経済性等について常に見直しを図っていく。

VI：課題とその対応策及び今後の方向性 (平成30年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
林道維持における工事箇所の決定について、優先度等、今後の考え方を整理する必要がある。	林道維持において、優先度、緊急性等を整理し、工事箇所を決定していく必要がある。

平成30年度決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
7	1	1	土木総務費	290

部局名	都市整備部
課名	土木管理課

I：事業概要

施策事業名	土木管理事務
事業目的	道路及び道路附属施設を適切かつ効果的に管理し良好な維持管理を継続する。
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ●全体の事業計画 <ul style="list-style-type: none"> ・道路及び道路附属施設を適切かつ効果的に管理し良好な維持管理を継続する。 ●主な事業内容 <ul style="list-style-type: none"> ○土木管理事務 <ul style="list-style-type: none"> ・報酬費 土木常設員44名分の報酬費 1,364,000円 <ul style="list-style-type: none"> 地元の土木要望（土木事業及び治水事業）等、市と市民の連絡調整役 ・需要費 光熱水費 電気料金（街路灯、道路照明灯、観光街路灯等） 23,062,221円 ・役務費 火災保険料（道路管理賠償責任保険料） 963,880円 ・委託料 <ul style="list-style-type: none"> 道路台帳更新委託料 6,588,000円 道路法第28条に基づき道路台帳整備（道路台帳デジタルデータ年度更新） 林道台帳整備委託料 2,678,400円 測量登記委託料 4,288,380円 <ul style="list-style-type: none"> （道路内民地処理、官民境界確定等のための調査、測量、嘱託登記） ・公有財産購入費（道路、水路用地等） 8,196,866円 ・負担金 ライン大橋管理組合負担金（各務原市と管理経費を1/2ずつ負担） 500,000円
事業の成果・効果	<ul style="list-style-type: none"> ・土木事業の円滑な推進のため土木常設員制度の資料を作成し各町会長に配布を行なった。 ・道路及び道路附属施設を適切かつ効果的に管理するための基礎資料として、道路台帳の適正な更新を行い、道路占用・承認工事等の各種許可申請の適正な処理、道路・水路の財産管理を行なうための境界確定、道路内民地処理等を適正に実施している。 ・ライン大橋管理組合として各務原市と共同でライン大橋及び管理橋の日常点検を行い安全に通行できるよう管理を実施している。

II：個別事業内訳

(単位：千円)

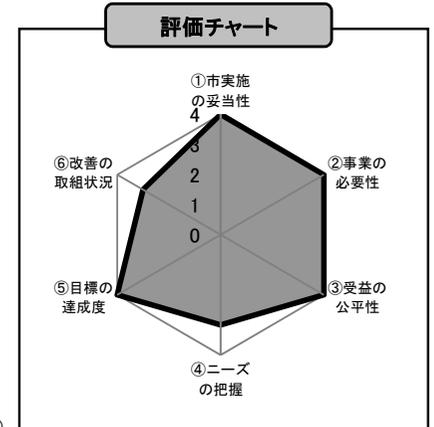
(総点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	総点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		情報発信	利便性向上	他市比較
土木管理事務	50,644	28,369	22,275	44%	3	3	4
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	50,644	28,369	22,275	44%	3	3	4

III：年度別事業費の状況

(単位：千円)

事業費	H29決算	H30決算	R1予算	
		64,744	50,644	57,563
財源内訳	国庫支出金	0	0	1,760
	地方債	0	0	0
	その他	30,324	28,369	28,500
	一般財源	34,420	22,275	27,303
一般財源の割合	53%	44%	47%	



IV：事業の評価 (4段階評価、PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	4	市道の管理については、道路法第16条により市が実施する。
②事業の必要性	4	道路等の維持管理には用地の適正管理が必要不可欠である。
③受益の公平性	4	道路行政財産である道路を適正に管理するための測量・境界確定は市民の財産を保全する役割を有している。
④ニーズの把握	3	道路・道路附属設備の改善・修繕について地元（市民）からの要望を把握している。
⑤目標の達成度	4	1年間の業務としては達成している。
⑥改善の取組状況	3	市民並びに、各町会長に土木常設員制度を理解して頂くために広報周知や資料の配布を行なった。

V：業務の総点検 (PDCAサイクルのC-A)

平成30年度に見直しを実施した事項	土木事業の円滑な推進のため土木常設員制度の資料を作成し各町会長に配布を行なった。道路台帳更新において、道路法に関する告示（道路区域等）の履歴のデータ化をし、業務効率の向上を図った。
令和元年度に見直しを実施している事項	土木管理事務の申請手続きやしくみなどについて、わかりやすさや利便性の向上に向けホームページの充実などを図る。
今後見直しを検討する事項	今後も土木管理事務全般事業について、必要性、改善点、コスト面について検討を行なう。

VI：課題とその対応策及び今後の方向性 (平成30年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
事務処理の簡素化、迅速な窓口対応を行なうために、道路台帳属性データの充実を図る必要がある。	道路台帳更新作業時に併せて、現在の道路台帳システムの問題点、必要とされる属性データの検討を行い、更に使いやすく改善を図る。

平成30年度決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
7	2	1	道路維持費	292

部局名	都市整備部
課名	土木管理課

I：事業概要

施策事業名	道路施設等管理		
事業目的	道路を安全で快適に利用できるよう道路施設の維持管理、街路樹の剪定や除草等を行う。		
事業内容	<p>●事業の全体計画</p> <ul style="list-style-type: none"> 道路施設の維持管理（道路パトロールによる道路補修、路肩除草、路面清掃、雪水対策等）、道路植栽帯の樹木剪定、除草等の管理を行う。 <p>●主な事業内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ○道路施設等管理 <ul style="list-style-type: none"> 道路作業業務委託（市内全域 道路パトロール・作業等） 8,812,800円 路面清掃作業委託（1・2級 道路路肩 年1回） 864,000円 側溝浚渫委託 547,128円 測量調査委託（測量調査、排水計画検討） 1,242,000円 土のう回収委託（町内清掃による側溝土砂の回収処分） 1,299,132円 ○道路植樹等管理 <ul style="list-style-type: none"> 道路植栽帯管理業務委託（市道犬山公園小牧線外19） 12,566,880円 道路除草委託 16,316,200円 街路樹剪定委託 6,548,580円 街路樹薬剤散布委託 97,200円 倒木処理・はみ出し枝処理委託 1,988,712円 ○トンネル長寿命化 <ul style="list-style-type: none"> トンネル長寿命化点検業務委託（城下トンネル） 2,057,400円 		
事業の成果・効果	<ul style="list-style-type: none"> 道路パトロールによる簡易な補修、路肩の除草、幹線道路の路面清掃、道路植栽帯については樹木剪定、除草等を行い、道路を安全に通行利用できるよう適正な維持管理を行った。 道路法に基づき城下トンネルの5年に1回の点検を実施した。 		

II：個別事業内訳

(単位：千円)

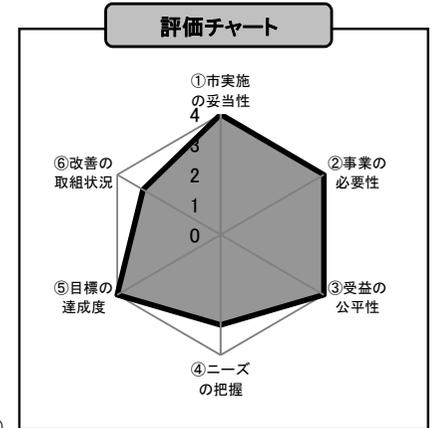
(総点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳			総点検進捗評価		
		特定財源	一般財源	一般財源の割合	情報発信	利便性向上	他市比較
道路施設等管理	13,138	0	13,138	100%	3	3	3
道路植樹等管理	37,518	0	37,518	100%	3	3	3
トンネル長寿命化	2,057	1,100	957	47%	3	4	4
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	52,713	1,100	51,613	98%	3	3	3

III：年度別事業費の状況

(単位：千円)

事業費	H29決算	H30決算	R1予算	
		48,124	52,713	59,872
財源内訳	国庫支出金	0	1,100	0
	地方債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	48,124	51,613	59,872
一般財源の割合	100%	98%	100%	



IV：事業の評価 (4段階評価、PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	4	道路法16条の規定により市道の管理はその路線の存する市が行う。
②事業の必要性	4	ライフラインである道路施設を適正に管理することは行政の責務であり、必須な事業である。
③受益の公平性	4	市内全域の道路等の事業であるため、不特定多数の市民が恩恵を受ける事業である。
④ニーズの把握	3	道路除草委託等一部においては、年度毎に提出していただく土木要望により、利用者の要望（ニーズ）を把握している。
⑤目標の達成度	4	1年間の業務としては達成し、道路等の適正な維持管理を図ることができた。
⑥改善の取組状況	3	事業の妥当性、経済性等を考慮し実施している。

V：業務の総点検 (PDCAサイクルのC-A)

平成30年度に見直しを実施した事項	事業の実施時においては、妥当性、経済性等について見直しを図っている。
令和元年度に見直しを実施している事項	事業の実施時においては、妥当性、経済性等について常に見直しを図っていく。
今後見直しを検討する事項	今後も事業の実施時においては、妥当性、経済性等について常に見直しを図っていく。

VI：課題とその対応策及び今後の方向性 (平成30年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
道路の除草、街路樹剪定等については、路線、植栽樹木の種類を把握し、優先度等今後の考え方を整理する必要がある。	道路の除草、街路樹剪定等において、優先度、緊急性等を整理し、路線の区域ごとに事業採択を決定していく必要がある。

平成30年度決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
7	2	1	道路維持費	292

部局名	都市整備部
課名	土木管理課

I：事業概要

施策事業名	道路維持修繕改修
事業目的	ライフラインである道路施設を適正に管理することは行政の責務であり道路を、安全で快適に利用できるように適正に維持管理する。
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ●事業の全体計画 <ul style="list-style-type: none"> ・地元からの土木要望に基づき、道路維持・改修、舗装修繕などの工事を行い、道路の適正な維持管理に努める。 ・市内で特に交通量が多い幹線道路の経年劣化に対応するため、計画的に舗装改修を行う。 ●主な事業内容 <ul style="list-style-type: none"> ○道路補修 <ul style="list-style-type: none"> ・道路維持工事 164件 32,011,470円 ・舗装修繕工事 51件 37,687,680円 ・道路改修工事 3件 9,428,400円 市道羽黒東182号線 2,268,000円 市道塔野地96号線 3,942,000円 市道前原35号線 3,218,400円 ・舗装改修工事（幹線道路の計画的な舗装改修） 4件 38,383,200円 市道犬山公園小牧線 10,260,000円 市道名古屋犬山線 10,476,000円 市道犬山富岡線 11,599,200円 市道犬山今井中線 6,048,000円 ・道路植栽帯維持管理工事 508,680円 ・原材料費（常温合材、砕石、土舗装材） 2,453,154円 ・上・下水道関連工事負担金（上野地区） 14,898,600円
事業の成果・効果	<ul style="list-style-type: none"> ・地元からの土木要望に基づき、道路維持・改修、舗装修繕などの工事を行い、道路の適正な維持管理に努めた。 ・幹線道路の舗装修繕予算を平準化するために策定した改修計画に基づき、平成30年度は4路線（市道犬山公園小牧線、市道名古屋犬山線、市道犬山富岡線、市道犬山今井中線）の舗装改修工事を実施した。

II：個別事業内訳

(単位：千円)

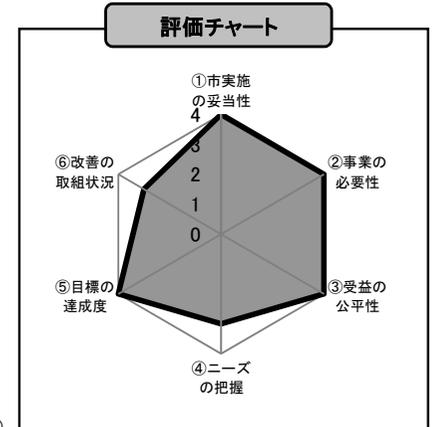
(総点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	総点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		情報発信	利便性向上	他市比較
道路補修	135,758	3,891	131,867	97%	3	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	135,758	3,891	131,867	97%	3	3	3

III：年度別事業費の状況

(単位：千円)

事業費	H29決算	H30決算	R1予算	
		155,106	135,758	133,108
財源内訳	国庫支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	1,310	3,891	6,424
	一般財源	153,796	131,867	126,684
一般財源の割合	99%	97%	95%	



IV：事業の評価（4段階評価、PDCAサイクルのCheck）

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	4	道路法16条の規定により市道の管理はその路線の存する市が行う。
②事業の必要性	4	ライフラインである道路施設を適正に管理することは行政の責務であり、必要な事業である。
③受益の公平性	4	市内全域の道路等の事業であるため、不特定多数の市民が恩恵を受ける事業である。
④ニーズの把握	3	年度毎に提出される土木要望により、利用者の要望（ニーズ）を把握している。
⑤目標の達成度	4	道路関係の地元要望に対する達成率は61%であり、年度当初目標値60%を上回ることができた。
⑥改善の取組状況	3	限られた財源内で、適切な維持管理を行うため、事業の緊急性・必要性などに、地元要望の優先順位を考慮しながら、実施している。

V：業務の総点検（PDCAサイクルのC→A）

平成30年度に見直しを実施した事項	市道犬山富岡線の舗装劣化が目立ったため、平成30年度に予定していた市道犬山今井上線と振替えし、舗装改修工事を繰上げ実施した。
令和元年度に見直しを実施している事項	幹線道路以外の道路についても、舗装劣化が酷く全面改修が必要な路線についても、計画的な実施ができるよう検討。
今後見直しを検討する事項	幹線道路の舗装改修計画は、平成32年度で現在の5ヶ年計画が終了するので、平成33年度以降の新たな5ヶ年計画の検討を進める。

VI：課題とその対応策及び今後の方向性（平成30年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項）

課題	対応策・今後の方向性
幹線道路の舗装改修計画の見直し	幹線道路において舗装修繕が必要な区間を抽出し、優先度を決定。概ね5ヶ年での予算平準化が図れるよう、計画を立てていく。

平成30年度決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
7	2	1	道路維持費	292

部局名	都市整備部
課名	土木管理課

I：事業概要

施策事業名	道路交通安全施設修繕
事業目的	車両及び歩行者の安全確保をするため、道路安全施設を適正に維持管理する。
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ●事業の全体計画 <ul style="list-style-type: none"> ・地元からの土木要望やPTAからの通学路要望に基づき、防護柵、街路灯など道路安全施設の新設や修繕工事を行う。 ・既存の道路照明灯(450基)をリース方式によりLED化する。 ●主な事業内容 <ul style="list-style-type: none"> ○道路交通安全施設修繕 <ul style="list-style-type: none"> ・道路照明灯修繕 1,425,995円 ・街路灯設置工事 10件 2,696,220円 LED灯新設102基 ・道路安全施設修繕工事 23件 7,612,272円 ・交通安全総点検対策工事 3,456,000円 市道橋爪210号線外8 区画線引き直し ・街路灯維持工事 28件 2,619,000円 ・道路照明灯更新工事 4件 9,293,400円 照明ポール建替等(繰越工事含む) 1件 4,698,000円 ・観光道路防護柵修繕工事(擬木柵再塗装) 1,684,141円 ・LED道路照明灯借上料(H30.12~H31.3) 591,840円 137,000円/月×4か月×1.08 貸借期間：平成30年12月1日から令和10年11月30日まで 貸付人：N T Tファイナンス株式会社
事業の成果・効果	<ul style="list-style-type: none"> ・地元からの土木要望やPTAからの通学路要望に基づき、防護柵、街路灯など道路安全施設の新設や修繕工事を実施し、安心・安全な道路管理に努めた。 ・リース方式によるLED化事業で、既存の道路照明灯(450基)のLED化が完了し、月々の電気料金の削減を確認できた。

II：個別事業内訳

(単位：千円)

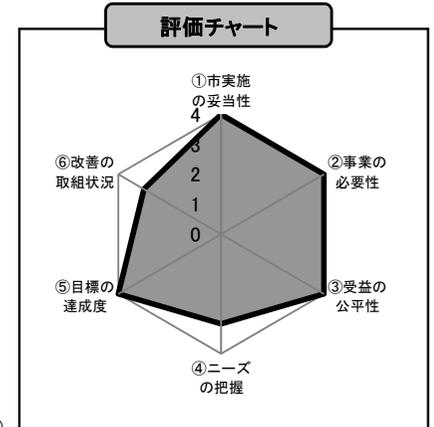
(総点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	総点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		情報発信	利便性向上	他市比較
道路交通安全施設修繕	29,379	0	29,379	100%	3	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	29,379	0	29,379	100%	3	3	3

III：年度別事業費の状況

(単位：千円)

事業費	H29決算	H30決算	R1予算	
		23,184	29,379	22,976
財源内訳	国庫支出金	3,672	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	19,512	29,379	22,976
一般財源の割合	84%	100%	100%	



IV：事業の評価 (4段階評価、PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	4	道路法16条の規定により市道の管理はその路線の存する市が行う。
②事業の必要性	4	ライフラインである道路施設を適正に管理することは行政の責務であり、必須な事業である。
③受益の公平性	4	市内全域の道路等の事業であるため、不特定多数の市民が恩恵を受ける事業である。
④ニーズの把握	3	年度毎に提出される土木要望により、利用者の要望(ニーズ)を把握している。
⑤目標の達成度	4	街路灯の新設については、要望137基に対して102基設置した。既存の道路照明灯(450基)のLED化が完了し、12月からリース契約(10年間)を開始した。
⑥改善の取組状況	3	限られた財源内で、適切な維持管理を行うため、事業の緊急性・必要性などに、地元要望の優先順位を考慮しながら、実施している。

V：業務の総点検 (PDCAサイクルのC-A)

平成30年度に見直しを実施した事項	道路照明灯(450基)のリース化を機に、台帳の再整理を行った。
令和元年度に見直しを実施している事項	平成30年度に行った道路照明灯(450基)のLED化による、電気料など維持管理費の削減効果の検証を行う。
今後見直しを検討する事項	市内の街路灯を一齐にLED化してからおよそ10年となる令和5年度頃に、灯具の一齐更新の時期を向えるため、その対策を検討しておく必要がある。

VI：課題とその対応策及び今後の方向性 (平成30年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
ソーラー式街路灯の導入	現状では製品が高価なため、積極的な導入は困難であるが、今後も価格動向に注視しながら、経済比較を行い、電柱が無い箇所への設置について検討をしていく。

平成30年度決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
7	2	1	道路維持費	292

部局名	都市整備部
課名	土木管理課

I：事業概要

施策事業名	駅前広場維持管理			
事業目的	駅利用者が、安全で快適に利用ができるよう維持管理を行う。			
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ●事業の全体計画 <ul style="list-style-type: none"> ・駅利用者が、安全で快適に利用ができるよう維持管理を行う。 ●主な事業内容 <ul style="list-style-type: none"> ○駅前広場一般管理 <ul style="list-style-type: none"> ・光熱水費（電気、水道、下水道） 3,928,500円 犬山駅前東西広場、楽田駅東広場 ○駅前広場管理 <ul style="list-style-type: none"> ・犬山駅東西連絡橋維持管理業務委託 1,441,584円 清掃管理、消防設備電気保守点検 ・犬山駅前広場維持管理業務委託 3,743,280円 清掃、除草、花壇管理等 ・犬山駅昇降機保守点検委託 1,573,344円 エスカレーター2基、エレベーター2基 ・犬山駅東西公衆便所清掃委託 964,224円 ・駅前広場維持工事 21件 1,740,984円 ○駅前広場営繕 <ul style="list-style-type: none"> ・トイレ洋式化工事 1,576,800円 犬山駅東西公衆便所（4基） ○犬山駅東西連絡橋改修 <ul style="list-style-type: none"> ・犬山駅東西連絡橋外装工事 9,342,000円 老朽化した東西連絡橋外装パネル等の改修 			
事業の成果・効果	<ul style="list-style-type: none"> ・駅利用者が、施設を安全で快適に利用できるよう日常の維持管理を行った。 ・犬山駅東西連絡橋の修繕計画に基づき、老朽化した外装パネルと屋根の改修を行った。 ・犬山駅東西の女子トイレ各2基の便器洋式化改修を行った。 			

II：個別事業内訳

(単位：千円)

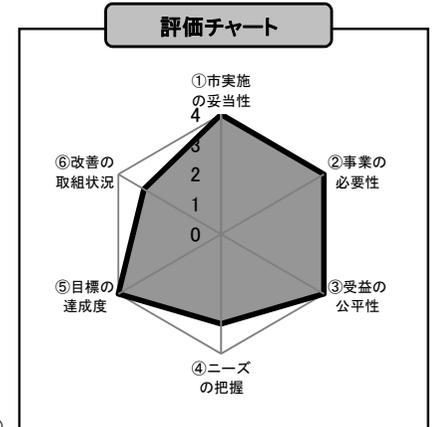
(総点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	総点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		情報発信	利便性向上	他市比較
駅前広場一般管理	4,490	227	4,263	95%	3	3	3
駅前広場管理	10,733	380	10,353	96%	3	3	3
駅前広場営繕	1,577	0	1,577	100%	3	3	3
犬山駅東西連絡橋改修	9,342	0	9,342	100%	3	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	26,142	607	25,535	98%	3	3	3

III：年度別事業費の状況

(単位：千円)

事業費	H29決算	H30決算	R1予算	
		50,668	26,142	63,755
財源内訳	国庫支出金	0	0	0
	地方債	22,100	0	0
	その他	594	607	588
	一般財源	27,974	25,535	63,167
一般財源の割合	55%	98%	99%	



IV：事業の評価 (4段階評価、PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	4	駅前広場は市管理地であり、民間への移行は困難なため、市で維持管理を行う。
②事業の必要性	4	駅前広場利用者が、安全で快適に利用できるよう維持管理を行うことは、管理者として必須な事業である。
③受益の公平性	4	市の顔である駅前広場等の事業であるため、不特定多数の市民が恩恵を受ける事業である。
④ニーズの把握	3	駅前広場維持工事等一部においては、年度毎に提出していただく土木要望により、利用者の要望（ニーズ）を把握している。
⑤目標の達成度	4	駅前広場等の適正な維持管理を図ることができた。 犬山駅東西連絡橋の修繕計画に基づき、老朽化した外装パネルと屋根の改修を行った。 犬山駅東西の女子トイレ各2基の便器洋式化改修を行った。
⑥改善の取組状況	3	コスト管理、情報化推進を考慮しながら事業を実施している。

V：業務の総点検 (PDCAサイクルのC-A)

平成30年度に見直しを実施した事項	犬山駅東西連絡橋の修繕計画では、駅西エスカレーターの改修は平成32年度の予定であったが、不具合による停止頻度が上がっていることから、改修時期を平成31年度に前倒しできるように、実施計画の見直しを行った。
令和元年度に見直しを実施している事項	犬山駅西エスカレーターの改修工事を予定している。
今後見直しを検討する事項	犬山駅東西連絡橋については、平成32年度が5ヶ年に1度の施設点検の年次となり、その結果を踏まえて新たな修繕計画の策定が必要。

VI：課題とその対応策及び今後の方向性 (平成30年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
空きスペースの利活用検討	空きスペースの民間貸し等、利活用を継続して検討していく。
駅前広場の照明灯のLED化	照明灯のLED化により電気料金等、維持管理費の削減を検討する。

平成30年度決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
7	2	3	橋梁維持費	296

部局名	都市整備部
課名	土木管理課

I：事業概要

施策事業名	橋梁維持補修
事業目的	橋梁の路面や安全施設等の補修を行い、安全確保に努める。
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ●事業の全体計画 <ul style="list-style-type: none"> ・橋梁の路面や安全施設等の補修を行い、安全確保に努める。 ●主な事業内容 <ul style="list-style-type: none"> ○橋梁維持補修 <ul style="list-style-type: none"> ・橋梁維持工事 2件 398,520円
事業の成果・効果	橋梁の路面や安全施設等の補修を行い、安全確保に努めた。

II：個別事業内訳

(単位：千円)

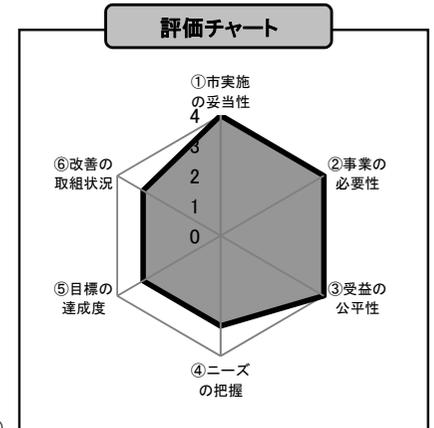
(総点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	総点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		情報発信	利便性向上	他市比較
橋梁維持補修	399	0	399	100%	3	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	399	0	399	100%	3	3	3

III：年度別事業費の状況

(単位：千円)

事業費	H29決算	H30決算	R1予算
	国県支出金	430	399
財源内訳			
地方債	0	0	0
その他	0	0	500
一般財源	430	399	0
一般財源の割合	100%	100%	0%



IV：事業の評価 (4段階評価、PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	4	道路法16条の規定により市道の管理はその路線の存する市が行う。
②事業の必要性	4	橋梁の適正な維持管理を行っていく上で事業の継続は必須である。
③受益の公平性	4	道路橋梁の事業であるため、不特定多数の市民が恩恵を受ける事業である。
④ニーズの把握	3	年度毎に地元より提出される土木要望により、利用者の要望(ニーズ)を把握している。
⑤目標の達成度	3	安全施設の損傷等については、迅速に対応している。
⑥改善の取組状況	3	事業の妥当性、経済性等を考慮し実施している。

V：業務の総点検 (PDCAサイクルのC-A)

平成30年度に見直しを実施した事項	工事の実施時においては、妥当性、経済性等について検討している。
令和元年度に見直しを実施している事項	引き続き、工事の実施時においては、妥当性、経済性等について検討していく。
今後見直しを検討する事項	引き続き、工事の実施時においては、妥当性、経済性等について検討していく。

VI：課題とその対応策及び今後の方向性 (平成30年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
工事箇所の決定について、優先度等今後の考え方を整理する必要がある。	優先度、緊急性等を整理し、工事箇所を決定していく必要がある。

平成30年度決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
7	3	2	河川改良維持費	298

部局名	都市整備部
課名	土木管理課

I：事業概要

施策事業名	河川施設管理
事業目的	河川・排水路施設の適正な維持管理を行う。
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ●事業の全体計画 <ul style="list-style-type: none"> ・河川・排水路施設の適正な維持管理を行う。 ●主な事業内容 <ul style="list-style-type: none"> ○河川施設管理 <ul style="list-style-type: none"> ・光熱水費 <ul style="list-style-type: none"> 電気料金（調整池8か所、防犯カメラ） 1,086,480円 高根洞工業団地水処理施設管理 13,538,880円 <ul style="list-style-type: none"> 点検・分析等 9,612,000円 汚泥処理等 3,926,880円 ポンプ保守点検委託（秋葉下調整池外5） 864,000円 河川排水路維持管理委託（地元要望 草刈・浚渫等） 63件 18,575,568円 秋・ゲート点検業務委託（村田排水路外8） 1,076,760円 河川排水路維持工事（地元要望 維持修繕工事） 31件 10,172,520円 高根洞工業団地水処理施設維持修繕工事 2,894,400円 補助金（都市浸水被害対策） 124,500円 <ul style="list-style-type: none"> 雨水貯留浸透施設設置費補助金
事業の成果・効果	排水路や調整池等において、施設の運転管理や保守点検、除草や浚渫など適正な維持管理を行った。

II：個別事業内訳

(単位：千円)

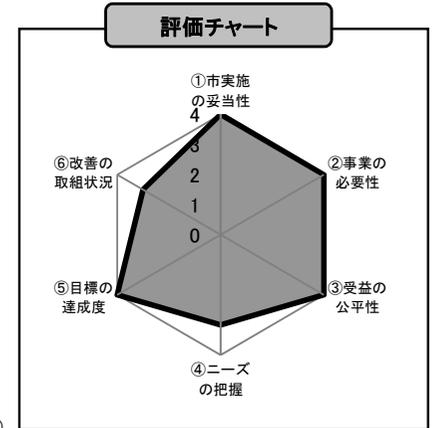
(総点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	総点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		情報発信	利便性向上	他市比較
河川施設管理	48,663	3,912	44,751	92%	3	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	48,663	3,912	44,751	92%	3	3	3

III：年度別事業費の状況

(単位：千円)

事業費	H29決算	H30決算	R1予算	
		51,356	48,663	52,004
財源内訳	国庫支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	3,902	3,912	3,507
	一般財源	47,454	44,751	48,497
一般財源の割合		92%	92%	93%



IV：事業の評価 (4段階評価、PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	4	大山市法定外公共用物の管理に関する条例第2条の規定により、排水路等の管理は市が行う。
②事業の必要性	4	排水路等の適正な維持管理を行っていく上で事業の継続は、豪雨等への対策は市民生活の安全基盤の整備であり必須である。
③受益の公平性	4	市内全域の排水路等の事業であるため、不特定多数の市民が恩恵を受ける事業である。
④ニーズの把握	3	年度毎に提出していただく土木要望により、利用者の要望（ニーズ）を把握している。
⑤目標の達成度	4	水路関係の地元要望に対する達成率は47%で、年度当初目標値40%を上回ることができた。
⑥改善の取組状況	3	保守点検により、不具合等を早期発見し、修繕計画を立てていく。地元要望については、緊急性等を優先度を考慮し、事業を実施。

V：業務の総点検 (PDCAサイクルのC→A)

平成30年度に見直しを実施した事項	事業の実施時においては、妥当性、経済性等について見直しを図っている。
令和元年度に見直しを実施している事項	事業の実施時においては、妥当性、経済性等について常に見直しを図っていく。
今後見直しを検討する事項	今後も事業の実施時においては、妥当性、経済性等について常に見直しを図っていく。

VI：課題とその対応策及び今後の方向性 (平成30年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
排水路、調整池等の要望における事業採択の決定について、優先度等今後の考え方を整理する必要がある。	排水路、調整池等の要望において、優先度、緊急性等を整理し、事業採択を決定していく必要がある。

平成30年度決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
7	4	7	公園管理費	310

部局名	都市整備部
課名	土木管理課

I：事業概要

施策事業名	都市公園維持管理
事業目的	都市公園等を安心、安全に使用できるよう適切な維持管理を行うことで、子どもたちの遊び場、健康維持増進、身近に自然とふれあう場や潤いのある空間として市民に提供する。
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ●事業の全体計画 <ul style="list-style-type: none"> ・都市公園（78か所）、ちびっこ広場（60か所）、児童遊園（4か所）、ポケットパーク（5か所）等の維持管理を行う。 ・地元町内からの要望等に基づき維持修繕工事を行う。 ●主な事業内容 <ul style="list-style-type: none"> ○都市公園維持管理 <ul style="list-style-type: none"> ・需要費 光熱水費 4,281,686円 ・都市公園等維持管理業務委託 20,574,273円 業者委託：石作公園、犬山丸の内緑地 町内会委託：都市公園・緑地73施設、児童遊園・ちびっこ広場等62施設 アメニティ協会委託：上坂公園外10施設 ・木曾川犬山緑地維持管理業務委託 1,404,000円 ・犬山ひばりが丘公園維持管理業務委託 7,614,000円 ・山の田公園維持管理業務委託 1,188,000円 ・遊具保守点検業務委託 2,176,200円 都市公園・緑地73施設、児童遊園・ちびっこ広場等54施設（年6回） ・樹木剪定業務委託（都市公園・緑地・児童遊園・ちびっこ広場等） 7,062,660円 ・除草業務委託（四季の丘緑地外） 4,251,960円 ・花と緑のあるまちづくり事業委託 2,865,240円 公園等花壇への花の苗植付・管理等 ・都市公園等維持管理工事 87件 19,978,099円
事業の成果・効果	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの遊び場として、また市民の健康維持や身近な自然とのふれあいの場として都市公園等を安心、安全に使用できるよう、維持管理を行っている。 ・日常的な維持管理業務については、町内会等に管理委託を行い、石作公園、ひばりが丘公園、くすのき公園、中山公園など比較規模が大きな公園については、アメニティ協会や業者への管理委託により管理を行った。 ・遊具の保守点検については、年6回実施し不具合の早期発見に努めた。

II：個別事業内訳

(単位：千円)

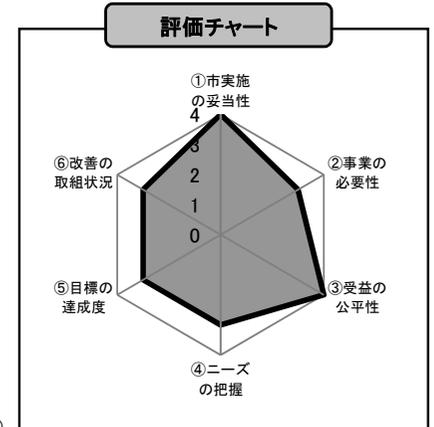
(総点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	総点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		情報発信	利便性向上	他市比較
都市公園維持管理	78,138	298	77,840	100%	3	4	4
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	78,138	298	77,840	100%	3	4	4

III：年度別事業費の状況

(単位：千円)

事業費	H29決算	H30決算	R1予算
	110,243	78,138	93,942
財源内訳			
国庫支出金	0	0	0
地方債	0	0	0
その他	277	298	752
一般財源	109,966	77,840	93,190
一般財源の割合	100%	100%	99%



IV：事業の評価 (4段階評価、PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	4	行政財産であり、市が主体で管理するもの。
②事業の必要性	3	市民の日常生活に直結しているものではあるが、非常時においては、最低限の維持管理とし、要望事業の縮小もやむを得ない。
③受益の公平性	4	不特定多数の市民が利用し恩恵を受ける事業と考えられる。
④ニーズの把握	3	年度ごとの地元要望により、利用者ニーズを把握している。ひばりが丘公園等は、市民の他に近隣市町からの利用も多くあり、利用者のニーズを把握し応えていく必要がある。
⑤目標の達成度	3	公園に関する地元要望の達成率は83%で、年度当初目標値80%を上回ることができた。公園除草の時期が遅れ、利用者からの苦情を頂くことがあった。
⑥改善の取組状況	3	コスト管理、情報化推進を考慮しながら事業を実施している。

V：業務の総点検 (PDCAサイクルのC-A)

平成30年度に見直しを実施した事項	業務の総点検の一環として、都市公園72箇所定期点検委託業務外の施設を対象に職員による公園点検を実施し、施設の適正管理を図った。
令和元年度に見直しを実施している事項	公共施設のバリアフリー化を推進するため、公園トイレの便器洋式化を行う。犬山ひばりが丘公園(2基)、上坂公園(1基)、石作公園(1基)、前原公園(1基)の洋式化を計画
今後見直しを検討する事項	既存の公園照明灯をLED化することにより、電気料など維持管理費の削減を検討

VI：課題とその対応策及び今後の方向性 (平成30年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
既存の公園照明灯をLED化することにより、電気料など維持管理費の削減を検討	道路照明灯のLED化を参考に、導入について計画検討を進める。

平成30年度決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
10	1	2	林業施設災害復旧費	384

部局名	都市整備部
課名	土木管理課

I：事業概要

施策事業名	林業施設災害復旧
事業目的	集中豪雨、台風等の災害により被災した林業施設を迅速・確実に機能復旧する。
事業内容	<p>●主な事業内容 平成30年度は、台風21号（9月4日）および24号（9月30日）による強風の影響で倒木被害が発生、その復旧工事を実施した。</p> <p>○林業施設災害復旧 ・災害復旧工事請負費 935,280円 災害復旧工事 3件 935,280円</p>
事業の成果・効果	台風21号（9月4日）及び台風24号（9月30日）に伴う災害復旧を行った。

II：個別事業内訳

(単位：千円)

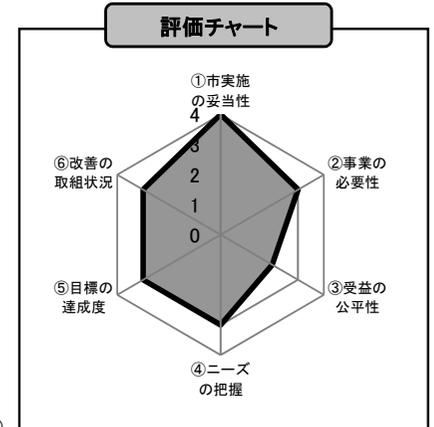
(総点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	総点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		情報発信	利便性向上	他市比較
林業施設災害復旧	935	0	935	100%	3	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	935	0	935	100%	3	3	3

III：年度別事業費の状況

(単位：千円)

事業費	H29決算	H30決算	R1予算
		-	935
財源内訳	国庫支出金	-	0
	地方債	-	0
	その他	-	0
	一般財源	-	935
一般財源の割合	-	100%	100%



IV：事業の評価 (4段階評価、PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	4	市は、林道管理規程第5条に定める管理者である。
②事業の必要性	3	被災箇所を復旧することは管理者の責務であり、事業の継続は必須であるが、非常時には、受益者が少ないため縮小も止むを得ない事業である。
③受益の公平性	2	林道利用者は限られているが、森林の持つ多面的な機能は、市民の生活環境向上に寄与している。
④ニーズの把握	3	災害復旧については、早急な対応を要望されている。
⑤目標の達成度	3	災害復旧という事業の性質上、年度当初に目標・計画を立てられないが、今年度の災害復旧工事については、概ね完了した。
⑥改善の取組状況	3	迅速に災害復旧が行えるよう、年度当初から予算計上。

V：業務の総点検 (PDCAサイクルのC-A)

平成30年度に見直しを実施した事項	災害発生直後から迅速に対応できるよう、平成30年度からは災害復旧工事費と委託費を当初予算に計上、予算執行後も補正予算により補填し次の災害に備えるようにした。
令和元年度に見直しを実施している事項	特になし
今後見直しを検討する事項	被災箇所の早期復旧に努める。

VI：課題とその対応策及び今後の方向性 (平成30年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
被災箇所の早期復旧に努める。	研修参加等により災害復旧の手法を習得するなど、職員の技術力向上を図る。

平成30年度決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
10	2	1	道路橋梁施設災害復旧費	384

部局名	都市整備部
課名	土木管理課

I：事業概要

施策事業名	道路橋梁災害復旧
事業目的	集中豪雨、台風等の災害により被災した道路・橋梁施設を迅速に機能復旧する。
事業内容	<p>●主な事業内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成30年度は、台風21号（9月4日）および24号（9月30日）による強風の影響で、道路への倒木被害が多発し、その復旧工事を実施した。 平成29年8月に襲った集中豪雨により谷側法面が崩壊した市道継鹿尾富岡線、市道楽田東192号線の災害復旧工事は、年度内に工事が完了が困難なため、予算繰越手続きを行い工事を進め、平成30年5月31日に完了した。 <p>○道路橋梁災害復旧</p> <ul style="list-style-type: none"> 災害復旧工事請負費 33件 10,549,764円 道路災害復旧工事 29件 6,094,764円 桜関連災害復旧事業工事（整備課） 4件 4,455,000円 繰越明許費（災害復旧工事請負費） 2件 12,760,200円 災害復旧工事 市道継鹿尾富岡線 7,577,280円 平成30年5月31日完了 災害復旧工事 市道楽田東192号線 5,182,920円 平成30年5月31日完了
事業の成果・効果	<ul style="list-style-type: none"> 台風21号（9月4日）及び台風24号（9月30日）に伴う災害復旧を行った。 繰越工事としていた平成29年8月の集中豪雨による復旧工事2件が完了した。

II：個別事業内訳

(単位：千円)

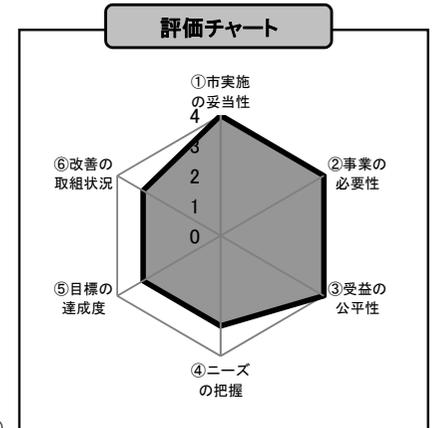
(総点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	総点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		情報発信	利便性向上	他市比較
道路橋梁災害復旧	23,310	0	23,310	100%	3	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	23,310	0	23,310	100%	3	3	3

III：年度別事業費の状況

(単位：千円)

事業費	H29決算	H30決算	R1予算	
		49,619	23,310	12,000
財源内訳	国庫支出金	6,411	0	0
	地方債	12,400	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	30,808	23,310	12,000
一般財源の割合	62%	100%	100%	



IV：事業の評価（4段階評価、PDCAサイクルのCheck）

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	4	道路法16条の規定により市道の管理はその路線の存する市が行う。
②事業の必要性	4	ライフラインである道路施設を適正に管理することは行政の責務であり、必要な事業である。
③受益の公平性	4	市内全域の道路等の事業であるため、不特定多数の市民が恩恵を受ける事業である。
④ニーズの把握	3	災害復旧については、早急な対応を要望されている。
⑤目標の達成度	3	災害復旧という事業の性質上、年度当初に目標・計画を立てられないが、今年度の災害復旧工事については、迅速に完了できた。
⑥改善の取組状況	3	迅速に災害復旧が行えるよう、年度当初から予算計上。

V：業務の総点検（PDCAサイクルのC→A）

平成30年度に見直しを実施した事項	災害発生直後から迅速に対応できるよう、平成30年度からは災害復旧工事費と委託費を当初予算に計上、予算執行後も補正予算により補填し次の災害に備えるようにした。
令和元年度に見直しを実施している事項	特になし
今後見直しを検討する事項	被災箇所の早期復旧に努める。

VI：課題とその対応策及び今後の方向性（平成30年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項）

課題	対応策・今後の方向性
被災箇所の早期復旧に努める。	研修参加等により災害復旧の手法を習得するなど、職員の技術力向上を図る。